

『長野県植物誌』(1997)に追加される下伊那地方産の植物(1)

浅野 一男

Kazuo Asano: Additional Plants to Flora of Nagano Prefecture (1997)
from Shimoina District (1)

飯田市と下伊那郡(以下下伊那地方と略記)に産する植物について、自らの採集標本と観察記録や植生調査資料などを検討した結果、『長野県植物誌』や同書の『補遺』に分布の記録がないか、記録数が少ないいくつかの植物が判明したのでここに報告する。本報告は和名、学名、産地、採集日、採集者名、採集者の採集番号、標本庫(Index Herbariorum登録機関はそのコード)、標本番号の順に配列し、観察記録などの特記事項を載せた。

標本の同定とご指導を賜った山本明(野外植物研究会、シダ植物)、勝山輝男(神奈川県立生命の星・地球博物館、カヤツリグサ科)、清水建美(金沢大学名誉教授、信州大学名誉教授、ガマ×ヒメガマ)の各先生に深甚なる謝意を呈する。また、標本の閲覧と種々の便宜を与えられた東京都立大学牧野標本館の若林三千男、菅原敬両先生はじめ職員各位に対し、心から御礼申し上げる。

Index Herbariorum 登録機関のコード:

MAK 東京都立大学牧野標本館

SHIN 信州大学共通教育

TI 東京大学総合資料館・理学部付属小石川植物園

参考文献:本文中では煩瑣を避けるため文献は以下の省略形で示した。

植物誌 長野県植物誌編纂委員会編, 1997, 長野県植物誌, 20+1735pp., 10pls., 信濃毎日新聞社

補遺 清水建美, 1998, 「長野県植物誌」補遺, 長野県植物研究会誌, 31:40-

43, 長野県植物研究会

補遺(1) 清水建美, 1999, 「長野県植物誌」補遺(2), 長野県植物研究会誌, 32:67-69, 長野県植物研究会

補遺(3) 清水建美, 2000, 「長野県植物誌」補遺(3), 長野県植物研究会誌, 33:67-69, 長野県植物研究会

補遺(4) 清水建美, 2001, 「長野県植物誌」補遺(4), 長野県植物研究会誌, 34:63-70, 長野県植物研究会

愛知植物 南川幸編, 1995, 愛知県の植物相, 328pp., 21pls., 愛知県

神奈川植物 神奈川県植物誌調査会編, 2001, 神奈川県植物誌2001, 1580pp., 神奈川県立生命の星・地球博物館

静岡植物 杉本順一, 1984, 静岡県植物誌, 814pp., 4pls., 第一法規出版株式会社

津具植物 大原準之助, 1981, 津具村の植物, 305pp., 24pls., 愛知県北設楽郡津具村教育委員会

東三河植物 鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館編, 1995, 鳥居喜一寄贈東三河の植物標本目録, 690pp., 鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館

上巻 下伊那教育会自然調査部編, 1952, 下伊那の植物 上巻, 328pp., 下伊那教育会

平凡野生草Ⅱ 佐竹義輔・他編, 1982, 日本の野生植物草本Ⅱ, 11+318pp., 372pls., 平凡社

保育原色木本Ⅱ 北村四郎・村田源, 1979, 原色日本植物図鑑 木本編Ⅱ, 6+545pp. (3刷), 71pls., 保育社

国RDB 環境庁自然保護局野生生物課編,
2000, 改訂・日本の絶滅のおそれの
ある野生生物—レッドデータブック
—8 植物I (維管束植物), 660pp.,
16pls., 財団法人自然環境研究センタ
ー

県RDB 長野県版レッドデータブック作成委
員会編, 2002, 長野県版レッドデー
タブック維管束植物編, 2002, 297pp.,
24pls., 長野県自然保護研究所

1. カタイノデモドキ (オシダ科)

Polystichum × izuense Sa. Kurata

高森町古御屋城趾480-500m, 1990.8.20,
浅野一男・浅野明子, MAK326500

カタイノデとイノデモドキとの雑種。イノ
デモドキが散生する林床で発見した常緑シダ
で、最初カタイノデと判断したが、次の違い
に気づいた。カタイノデに比べると葉の色の
黒みがない上、葉質がより軟らかで光沢が浅
く、イノデモドキのように葉先が尾状に細ま
る。葉柄基部の小鱗片は褐色、大きな鱗片は
黒褐色で褐色の縁取りがある。胞子囊群はカ
タイノデに似て小羽片の中肋と辺縁の中間に
つき、イノデモドキのように辺縁よりにつく
ことも、下部羽片で耳垂に優先的につくこと
もない。

本雑種は関東地方以西の本州と四国・九州
に分布するもので、下伊那では希産植物の一
つ。『補遺(2)』には下伊那郡最南部の天龍
村から分布が記録されている。上記高森町の
産地は天龍村から北へ緯度で15'30", 直線距
離で約30km 離れている。

2. ギフベニシダ (オシダ科) *Dryopteris kinkiensis* Koidz. ex Tagawa

高森町下市田萩山神社480-520m,
1990.8.23, 浅野一男・浅野明子, 33650, MAK

萩山神社の社叢のシダ植物相は豊かで、主
なものとしてトウゲシバ、ゼンマイ、キジノ
オシダ、トラノオシダ、シシガシラ、オオイ
タチシダ、オクマワラビ、オシダ、ギフベニ
シダ、クマオシダ、サイゴクイノデ、サイゴ

クベニシダ、シノブカグマ、ナンゴクナライ
シダ、ベニシダ、ホソバナライシダ、ミヤマ
イタチシダ、ハリガネワラビ、ミドリヒメワ
ラビ、ミヤマワラビ、ヤワラシダ、イヌワラ
ビ、ホソバシケシダ、ムクゲシケシダ、ヤマ
イヌワラビ、ヤマカライヌワラビ?, ノキシ
ノブを数える。本種は一見サイゴクベニシダ
的であるが、根茎は小塊状。葉身は長楕円形
で暗緑色、少し光沢があり、やや薄い洋紙質。
葉柄や葉軸の鱗片は暗灰褐色で密生せず、葉
柄の地肌が見える。胞子囊群は小羽片の辺縁
と中肋の中間かやや中肋よりにつくなどの点
で、サイゴクベニシダと異なる。

秋田県以南の本州・四国・九州と朝鮮、中
国に分布する暖温帯性のシダのため長野県で
は稀で、既知の産地は『補遺(4)』にある長
野市だけだったが、今回の調査で下伊那地方
にも分布していることがわかった。

3. テリハヤブソテツ (オシダ科)

Cyrtomium fortunei J. Sm. form. *laetevirens*
Hiyama

阿智村備中原花の木沢520-570m,
2001.6.12, 浅野一男・浅野明子, 38344,
MAK324128

阿智村備中原花の木沢520-570m,
2001.6.12, 浅野一男・浅野明子, 38343,
MAK324187

阿智村備中原沢580-600m, 2001.5.31, 浅
野一男・浅野明子, 36394, MAK

葉面がやや黒みがかり、光沢が強いヤブソ
テツの一型で、檜山庫三が基準産地の横浜市
金沢区からの採集品(檜山庫三, 1947.11.16,
TNS105578)に基づいて、1953年に植物研究
雑誌に発表したもの(植研28:218)。1992年、
中池敏之は、同定にくいヤブソテツ類の中
にあってこのテリハヤブソテツは認識しやす
いものとして、*C. laetevirens* (Hiyama) Nakaike
の学名を与えて独立種とした(Nakaike: New
Fl. Jap. Pterid. rev. & enlarg.: 840)。山本明の指
摘以後注意してみると、同一村内の各地にあ
ることが判明した。今まで余り認識されずに
いた品種なので長野県内の分布は不明である。

今後の調査で生育地の増加が期待される。

なお、阿智村のヤブソテツはかなり多型で、葉の長さが85cm以上、羽片が20対以上もつく、ヤブソテツ多羽片型と呼ばれるものも次の場所で採集されている。

阿智村上郷650-660m, 2001.11.6, 浅野一男・浅野明子, 40758, 40759, 40762, MAK

4. オオホソバシケシダ (イワデンダ科)

Deparia conilii × *japonica*

飯田市鼎名古熊神社500m, 1993.7.23, 浅野一男・浅野明子, MAK321003

ホソバシケシダとシケシダの雑種。この両親が存在する社叢の林床で1株見つけた。ホソバシケシダに似るが、葉の幅がより広く、羽片の中軸への付き方は最下羽片が下向き、下部羽片は直角、上部羽片は斜上する。胞子嚢はシュリンクしていて、胞子は形成されていなかった。

『植物誌』(p.252)は木曽郡山口村のみを記すが、上記の標本によって下伊那地方にもあ

ることがわかった。

学名はまだ正式な形では発表されていないので、両者の種小名を組み合わせたものになっている。

5. コシノサトメシダ (イワデンダ科)

Athyrium neglectum Seriz.

売木村長島峠940m, 2001.8.30, 浅野一男・浅野明子, 38033, MAK324723

2001年5月28日、長島峠頂上付近から流れ下る小渓流の右岸、岸から2mほど離れ、川面から1mほど高いところに立つ若いヒノキ林の湿った林床で、サトメシダともヤマイヌワラビとも判断できない、胞子嚢群のついていない株の一つを見つけた。それに一応ヤマイヌワラビと名付け、同定を山本明にお願いしたところ、氏はコシノサトメシダの可能性が高いと指摘された。8月30日、再び現地で採集した胞子嚢群のついた葉をを検討した結果、本種であると確認された。

葉柄は緑色、基部の鱗片は膜質で淡褐色。小羽片の切れ込みは浅く、深くても深裂まで。胞膜は不整の鈍鋸歯縁で、サトメシダのように毛状細裂はしない。

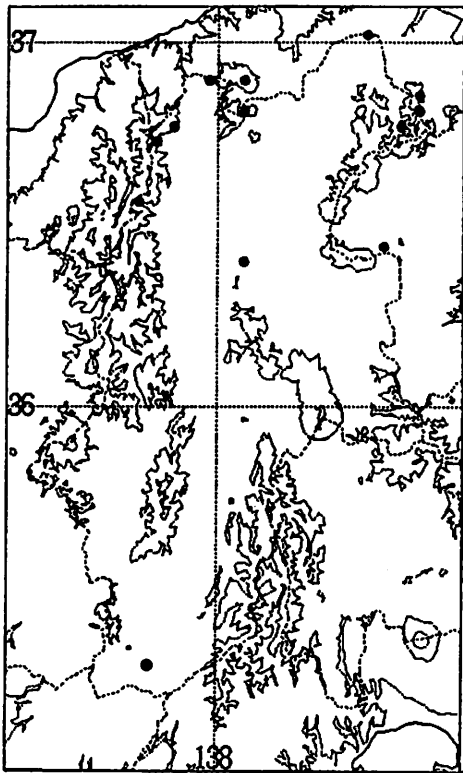
本種の分布は北海道と中部地方以北の日本海側といわれる。『植物誌』(p.242)によると産地は上水内、下水内と北安曇のみで中南信が



図1 オオホソバシケシダ



図2 コシノサトメシダ



分布図1 コシノサトメシダ
「植物誌」P245の図に1点加筆

ない。『神奈川植物』は丹沢山の産地を記すが、『愛知植物』『東三河植物』『津具植物』『静岡植物』に記載がなく、神奈川県までの経路は不明である。今回売木村での発見はその経路を考察する手がかりの一つとなりうるだろう。

6. ミドリヤマヌワラビ(イワデンド科)
Athyrium vidalii (Franch. et Sav.) Nakai form.
viridans Sa. Kurata

阿智村大鹿水無神社730-740m, 2001.6.21,
浅野一男・浅野明子, 37140, MAK

倉田悟が1968年に『北陸の植物』(16: 32-34)に発表した、葉柄、葉軸、羽軸が緑色なヤマヌワラビの品種。今まで気づかれずにいた品種なので長野県内の分布は不明である。

7. ケアブラチャン(クスノキ科) *Lindera praecox* (Siebold et Zucc.) Blume var. *pubescens* (Honda) Kitam.

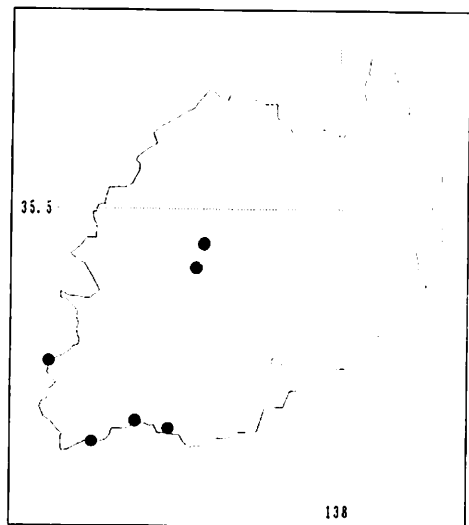
阿智村上郷650-660m, 2001.11.6, 浅野一男・浅野明子, 39549, MAK326376

売木村ブナノネ牧場1120-1150m, 2001.7.13, 浅野一男・浅野明子, 38500, MAK
天龍村大河内960m, 1988.7.3, 浅野一男・浅野明子, 90093, SHIN

根羽村浅間900m, 1989.10.11, 浅野一男・浅野明子, 96037, SHIN

根羽村外山岐阜県境560m, 1988.11.6, 浅野一男・浅野明子, 90906, SHIN

飯田市伊賀良三日市場奥位神社540m, 1993.7.11, 浅野一男・浅野明子, 31822, MAK
本州の主に日本海側に分布するといわれるアブラチャンの変種で、葉裏の中肋と側脈上に開出毛があり、成葉にも残るもの。『植物誌』(p.297)によると産地は上水内、下水内、下高井と北安曇のみで、中南信の記録がない。



分布図2 ケアブラチャン(長野県下伊那郡)

東海地方では愛知県北設楽郡津具村(『津具植物』p.145)、静岡県榛原郡中川根町(『静岡植物』p.190)から記録されている。また、『保育原色木本Ⅱ』は「神奈川県箱根にもある」と記すが、『神奈川植物』には出ていない。

日本海側に分布の本拠を置くコシノサトメシダ、ケアブラチャン、キバナイカリソウ(伊那谷の竜東地域では静岡県境から赤石山脈沿いに上伊那郡まで北上、竜西地域では愛知県境から下伊那郡阿知川付近まで北上)が、中南信を飛び越えて愛知・静岡県境地帯に現れ、一部のものは東進して神奈川県西部まで達している。この分布の解明は進んでいないが、若狭湾～濃尾平野、恵那地方、奥三河地方の調査が進めば手がかりが得られるかもしれない。

8. ナガバヤブマオ (イラクサ科)

Boehmeria sieboldiana Blume

阿智村備中原春日神社周辺530m, 2001.9.1, 浅野一男・浅野明子, 40203, MAK

本州(関東地方以西)、四国、九州、朝鮮南部に分布する倍数体無融合生殖型(非減数卵が受精せずに種子になる性質をもつ倍数体)の多年草で、葉は軟質で先は3裂せず、表面はほぼ平滑、鋸歯は単一で17対以上という特徴をもつ。『植物誌』(p.398)によると県内の分布は木曽郡山口村だけのようであるが、最近下伊那でも発見された。上記の産地は丘の北西斜面の麓にある湿地に隣接する、竹林のやや陰湿な林縁である。

9. ナラガシワ (ブナ科) *Quercus aliena*

Blume

売木村牧場950-1100m, 2001.7.28, 浅野一男・浅野明子, 41120, MAK

本州(秋田県と岩手県以西)、四国、九州、朝鮮、中国に分布する高木。長野県には稀で、『植物誌』(p.406)は下水内郡、松本市、茅野市を記す。この記事から判ずると分布は日本海側に偏っているといえそうだが、太平洋側にも産地が点在していて、『愛知植物』『東三河植物』『静岡植物』『神奈川植物』にこの

名が見られるし、『上巻』には標本記録を伴わない飯田市山本、清内路村、南信濃村が載っている。以上のことから下伊那地方でも見つかるだろうと考えて県境地域で調査した結果、上記の標本を得た。

10. ナガボハナタデ (タデ科) *Persicaria yokusaiana* (Makino) Nakai var. *laxiflora* Hiyama

阿智村佐和南沢林道810-900m, 2001.7.27, 浅野一男・浅野明子, 40599, MAK

阿智村上郷650-660m, 2001.11.6, 浅野一男・浅野明子, 39522, MAK326375

売木村岩倉林道箱川線870-900m, 2001.8.13, 浅野一男・浅野明子, 40859, MAK326613

売木村売木川上流900-920m, 2001.9.26, 浅野一男・浅野明子, 38875, MAK

売木村売木川上流900-920m, 2001.9.26, 浅野一男・浅野明子, 38874, MAK

総状花序は糸状に細長く、4~17mmの間隔で花をつけるハナタデの変種。余り認識されずにきた変種とみえ、『植物誌』は佐久市のみを記す。したがって県内の分布の詳細は不明だが、注意すれば見つかる可能性が高い。基準変種ハナタデと同所的に生えることがある。

11. エゾアジサイ (アジサイ科) *Hydrangea serrata* (Thunb. ex Murray) Ser. var. *megacarpa* (Ohwi) H. Ohba



図3 エゾアジサイ

高森町吉田山二又沢林道850-860m, 1990.8.7, 浅野一男・浅野明子, 39632, MAK
 葉, 花序, 装飾花, 果実がより大型なヤマアジサイの変種で, 北海道, 本州(日本海側の多雪地帯), 九州(北部と大隅半島)に分布する。『植物誌』(p.626)が記す県内の産地は上水内, 下水内, 上高井, 下高井, 北安曇であるが, 最近行った標本調査で下伊那にもあることがわかった。上記の場所は林道と溪流に挟まれた落葉樹林内の林縁近くである。

12. チョウセンキンミズヒキ (バラ科)
Agrimonia coreana Nakai

阿智村昼神阿智神社600m, 2000.11.9, 浅野一男・浅野明子, 32519, MAK

阿智村古料570-580m, 2001.9.2, 浅野一男・浅野明子, 37785, MAK

高森町新田光明寺周辺640-700m, 1991.8.6, 浅野一男・浅野明子, 34877, MAK

『平凡野生草Ⅱ』のPL.178-4で見るように, 扇形に大きく広がって茎を挟む托葉が特徴で, 野外でもキンミズヒキやヒメキンミズヒキとの区別に役立つ。頂小葉に続く大きな側小葉は1対か2対で, 大きさは頂小葉とほぼ同じ。分布は北海道(西南部)～九州, 朝鮮, 中国東北部, シベリア南東部。『植物誌』(p.687)は埴科と南佐久に分布が偏る稀産種だといひ, 『県RDB』は準絶滅危惧種, 『国RDB』は絶滅危惧Ⅱ類に指定している。下伊那での最初の発見は1991年, 以後発見が途絶



図4 チョウセンキンミズヒキ

えていたが, 最近阿智村で2ヶ所見つけた。産地はすべて原記載通り林内だったが, 草地に生えるという説もあるので, 環境へは案外幅広い適応を示すのかもしれない。

13. コダイコンソウ (バラ科) *Geum japonicum* Thunb in Murray var. *iyosanum* (Koidz.) Murata

阿智村北青見平ケミ沢周辺880-920m, 2001.11.17, 浅野一男・浅野明子, 39827, 39828, MAK

阿智村古料570-580m, 2001.9.2, 浅野一男・浅野明子, 37787, MAK

阿智村寺尾伊賀良神社 820-840m, 2001.7.16, 浅野一男・浅野明子, 37299, MAK323397

売木村岩倉林道箱川線870-900m, 2001.8.13, 浅野一男・浅野明子, 40858, MAK326614

売木村霧山880m, 2001.7.14, 浅野一男・浅野明子, 38381, MAK

根生葉の側小葉は普通2～(3)対, ときに1対または側小葉を欠く。頭小葉や側小葉は2～3中深裂することが多い。茎の葉は多くが3小葉の複葉だが, 茎頂近くの葉は2～3中深裂する単葉である。花は1本の花柄に1～3個つく。これらの特徴に注意すればダイコンソウと見分けられる。



図5 コダイコンソウ

神奈川県を分布の東限とし、本州（静岡、三重、兵庫）・四国（愛媛、高知）・九州（熊本、宮崎）に分布するが、長野県内の分布は今のところよくわからない。なお、本変種は基準変種のダイコンソウと同所的に生育していることがある。

14. ハスノハイチゴ(バラ科) *Rubus paltatus* Maxim.

阿智村恵那山1260m, 1960.9.14, 浅野一男, TI

阿智村恵那山1400m, 1957.7.29, 金井弘夫, TI

阿智村本谷, 1914.8.3, 米山太郎吉, MAK214530

阿智村神坂峠, 勝又恒一, 16761, TI

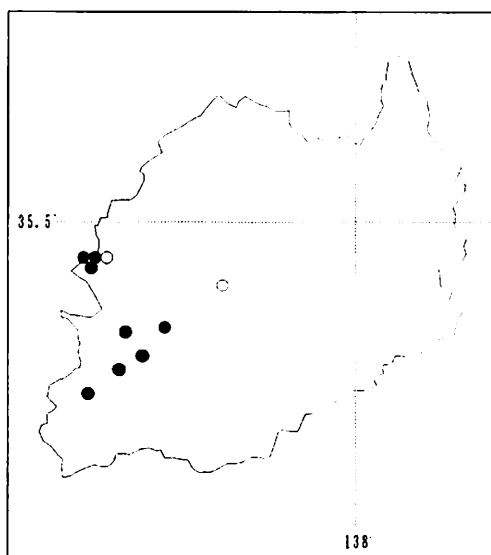
浪合村恩田川1300m, 浅野一男, 21663, TI

浪合村恩田川1400m, 浅野一男, 21409, TI

浪合村萱小屋川1400m, 浅野一男, 22001, TI

浪合村萱小屋川1550m, 浅野一男, 22002, TI

浪合村大根沢峠道1050m, 1989.10.1, 浅野一男・浅野明子, 95952, 95953, SHIN



分布図3

平谷村平谷スキー場1050m, 1998.11.4, 浅野一男・浅野明子, 33718, MAK

葉柄に盾着する大きな3~5浅裂する葉。葉と対生し、単生する花。円柱形で大きく、黄白色に熟す果実（集合果）が特徴。『植物誌』（p.677）には木曾郡南部4地点の産地が記録されている。下伊那地方にあることはつとに知られていて、東大には1957年に採集された標本、都立大牧野標本館には1914年に採集された標本がある。分布は本州（長野県南西部、愛知県、福井県以西）、四国、九州、朝鮮、中国中部。国内分布の東限は今のところ下伊那郡下條村阿知原370-400m (137°48'E, 35°25'N) のようである。

15. ミズキカシグサ(ミソハギ科) *Rotala pentandra* (Roxb.) Blatt. et Hallb.

阿智村備中原花の木沢560m, 2001.9.14, 浅野一男・浅野明子, 39048, MAK

水田に生える小草本で、本州以西の日本、中国、東南アジア~インド・アフガニスタンに分布する。長野県ではごく稀で、『植物誌』（p.751）は木曾郡の王滝村と山口村のみを記す。『県RDB』は情報不足種、『国RDB』は絶滅危惧ⅠB類に指定している。

16. アオホオズキ(ナス科) *Physalisstrum japonicum* (Franch. et Sav.) Honda

阿智村寺尾伊賀良神社820-840m, 2001.9.2, 浅野一男・浅野明子, 37353, MAK323399

南信濃村柿の島~加加良小屋1300m, 1962.8.1, 浅野一男, TI

他に1960年代に調べた下伊那教育会所蔵標本の中に2点、下條村南沢, 1929.6.10と南信濃村南和田, 1930.6.13があったが、どちらの産地も現状不明である。

本州と四国の谷筋のやや陰湿な林床に生える多年草。名前の通り楕円形の果実は緑色で、熟しても壺型の萼から外に出ない。花は淡緑色で1~2個葉腋に下垂してつく。『国RDB』は絶滅危惧Ⅱ類、『県RDB』は絶滅危惧ⅠA類に指定している希少種で、『植物誌』（p.898）

の記載も木曽郡南木曽町のみである。こういう状況下において最近前項ミズキカシグサとともに下伊那地方で新産地を発見したことは朗報といえよう。



図6 アオホオズキ

17. ビンゴムグラ (アカネ科) *Galium pseudoasprellum* Makino var. *bingoense* Murata et Ezuka

阿智村寺尾伊賀良神社820-840m, 2001.9.2, 浅野一男・浅野明子, 37336, MAK323400

阿智村東栗矢田代川570-590m, 2001.9.25, 浅野一男・浅野明子, 38659, MAK

売木村元下り沢820-900m, 2001.9.27, 浅野一男・浅野明子, 38259, MAK

売木村岩倉林道箱川線870-900m, 2001.8.13, 浅野一男・浅野明子, 40901, MAK

売木村牧場950-1100m, 2001.7.28, 浅野一男・浅野明子, 41013, MAK

葉は5～6輪生し、上部の枝のみ4輪生するオオバノヤエムグラの変種で、基部から4輪生、ときに茎の中部で5(6)輪生するもの。北海道と本州の一部に分布する。『植物誌』(p.1503)は茅野市と下伊那郡大鹿村の産地を記すが、最近下伊那で矢継ぎ早に見つかった。従来県内での発見が少なかったのは、村田源による本変種の発表が1992年(植物分類地理, 43(2)147-149)だったことによるかもしれない。

18. タカクマヒキオコシ (シソ科) *Isodon shikokianus* (Makino) H. Hara var. *intermedium* (Kudô) Murata

売木村せせらぎの小径1120-1140m, 1999.9.2, 浅野一男・浅野明子, 39694, MAK326378

売木村牧場950-1110m, 2001.10.21, 浅野一男・浅野明子, 39437, MAK

本種は紀伊半島と四国に分布するミヤマヒキオコシの変種。葉は披針形か広披針形で長さ3～10cm, 幅1～3cm。花冠は8～10mm。花穂軸につく苞葉は広披針形～長楕円形。上萼裂片は狭三角状卵形で鋭先端という特徴をもち、本州(福島県以西)、四国、九州に分布する。『植物誌』(p.937)は木曽郡山口村のみを記載し、長野県での分布は木曽郡南部に限られると述べている。しかし、『愛知植物』と『東三河植物』は下伊那地方に隣接する愛知県北設楽郡と南設楽郡を、『静岡植物』は遠江、西駿河、伊豆を、『神奈川植物』は箱根を産地としてあげている。以上の記事から下伊那地方にもあるだろうと予想して調査したところ、上記の2地点から標本が得られた。

19. キキョウソウ (キキョウ科) *Triodanis perfoliata* (L.) Nieuwl.

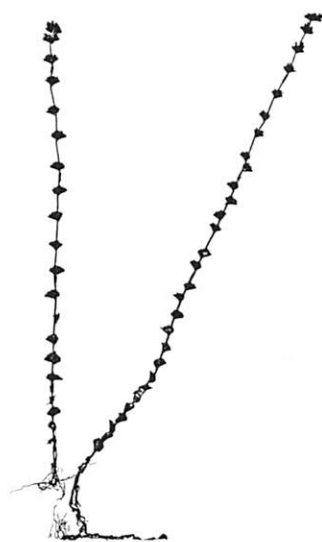


図7 キキョウソウ

売木村立又1000m, 2001.7.27, 浅野一男・浅野明子, 40799, MAK326527

北アメリカ原産の帰化植物で、普通日当たりのよい生け垣や植え込みなどの草地に見られるが、上記の産地は草がまばらに生える砂質土壌の空き地であった。

葉は互生、茎の下部の葉は楕円形で茎を抱かないが、中部以上の葉は扁円状心形で、長さは幅と同長か短く、基部は茎を抱く。蒴果は円筒形で、熟すと子房壁の中央部に穴があき種子を出すのが特徴。花は二形性で茎の上部に萼裂片5、花冠がある開放花、中下部に萼裂片3~4、花冠がほとんど退化している閉鎖花をつける。

20. セイヨウノコギリソウモドキ(キク科)
Achillea stricta (W. D. J. Koch) Schleich. ex Gremli

売木村長島峠900m, 2001.8.13, 浅野一男・浅野明子, 37512, MAK323401

一見セイヨウノコギリソウと見まがうが、葉の切れ込みが浅くて2~3回羽状深裂し、中肋は有翼で翼とともに幅1.5~3mm。頭花は長さ約5mmと大きいのが特徴。因みにセイヨウノコギリソウは葉が2~3回羽状深全裂、中肋は無翼、頭花は長さ3~3.5mmである。本種はセイヨウノコギリソウと*A. distans* Waldst. et Kit.との雑種だという説もある。学名は『神奈川植物』に従った。上記の標本は栽培品が逸出したものらしい。

21. ホソイ(イグサ科) *Juncus setchuensis* Buchenau var. *effusoides* Buchenau

売木村三本栗880m, 2000.11.8, 浅野一男・浅野明子, 32986, MAK

本州~九州, 朝鮮, 中国に分布する多年草。『植物誌』(p.1215)には下伊那地方からの記録がないが、その存在が放棄水田で採集した上記の標本でわかった。イによく似ているが、明瞭な縦溝がある茎、半透明で薄膜の大きな葉耳、花被片より長い蒴果に注目すれば見分けられる。

22. ガマ×ヒメガマ(ガマ科) *Typha latifolia* L. × *T. domingensis* Pers.

阿智村河内天満社660m, 2001.7.16, 浅野一男・浅野明子, 36768, MAK326526

池中のガマ群落の中で1株見つけた。ガマとコガマの雑種アイノコガマ *T. × suwaensis* T. Shimizuにしては、葉の幅が9~10mmと細い。雄花穂と雌花穂が連続し、間に花がつかないむき出しの軸がない。雌花穂は太さが一様で、長さ20cm, 径1cm。花粉粒は単粒と4集粒が混じるなどの違いに気づいたが、一応アイノコガマとして同定を依頼したところ、ガマとヒメガマの雑種であることが分かった。

本標本はガマ的な雄花穂と雌花穂の連続と4集粒の花粉、ヒメガマ的な幅の狭い葉と細長い雌花穂、単粒の花粉をもつ。

23. オオカワズスゲ(カヤツリグサ科)
Carex stipata Muhlenb. ex Schkuhr

阿智村備中原花の木沢520-570m, 2001.6.1, 浅野一男・浅野明子, 39683, MAK326528

『植物誌』(p.1255)には下伊那地方の記録がないが、2001年の調査でその存在がわかった。産地は溪側の湿地である。この自生地は現在進行中の阿智村産業廃棄物処理場建設予定地内にあるので、工事によって失われる可能性が高い。



図8 セイヨウノコギリシウモドキノ葉

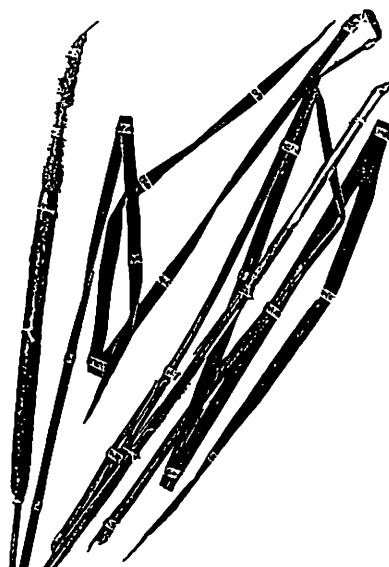


図9 ガマメヒメガマ